自然と生き物の色々な話

～里山のお話～

里山とは、人の手が加わっていない自然と、人が住む農村、集落などとの境目にある、生活に結びついた山や森林のこと。また、隣接する農地や集落を含んだ地域全体を指すこともあります。

ガスや電気が無かった時代に、生活するのに必要な薪や炭の材料、作物の肥料となる草や落ち葉などが採取できる自然として、人びとの暮らしに密着し、農業や林業にも役立ってきました。

人の手が入っているため特有の生物が生息する環境と、食料や木材などが採れる点から、農村文化の重要な拠点になっています。

里山で最も代表的な形態は、薪炭林（燃料用の木の林）です。
生えている木の多くはクヌギ、ナラといった実がドングリと呼ばれる木で、以下のような形で役立っています。

1. 薪、炭の原料となる木の採取
2. 畑や田んぼの肥料にするための落ち葉や草の採集
3. 家畜の餌としての草の採集
4. 自分で食べるため、もしくは売るための、キノコや野草、薬草などの採集

環境省　近畿地方環境事務所

◆この資料やアクティブレンジャーによる出前授業についてのお問い合わせ先◆
竹野自然保護官事務所　TEL:0796-47-0236　FAX:0796-47-0249

里山利用のサイクル

里山を利用する上で重要なのは「萌芽更新」という現象です。
これは木を切った後の切り株から新しく芽が出て新しい幹になるという現象です。
これにより、種から成長するよりも早く、十分な大きさの木になります。この現象を利用して、里山では薪や炭の材料である木を育ててきました。

薪に適した木がある

寿命の木は枯れ、
そこに新しい木が生える

約 10 年で木が大きく育つ

木を伐採する

里山（薪炭林）

利用のサイクル

萌芽更新で木が育つのを待つ

切った木が薪や炭になる

環境省　近畿地方環境事務所

◆この資料やアクティブレンジャーによる出前授業についてのお問い合わせ先◆
竹野自然保護官事務所　TEL:0796-47-0236　FAX:0796-47-0249